

香椎宮参道のクス並木



所在地：東区香椎一・二・四丁目
所有者：福岡市
関係者：香椎東校区自治連合会
概要
延長：751m
樹木：クスノキ
本数：140本
完成年月：大正15年



賞の対象は、香椎宮参道約800mの両側の歩道、いわゆる勅使道に植栽されたクスノキの並木を主体とした街路空間である。往年は落葉樹が主体であった街路樹に常緑のクスノキを採用したことには興味をそそられる。新芽時の紅色、初夏の淡緑色、盛夏時の鮮やかな緑は日光を遮る緑陰を提供する常緑でありながら十分季節感を感じさせる。根本の周囲（芝付き周）は15〜35m、高さ8〜15mと生育は不均等であるが、それが却って規格化された街路樹のイメージを和らげて古色蒼然とした森の風情を感じさせる樹木である。根茎保護のための植樹の改良がされており、適宜管理も行われているようであるが、今後、大木については若干の抑制管理が必要になるかもしれない。対象空間は、今までも他の賞の候補に何度となく挙がっていた記憶が筆者にはある。それだけ多くの人々に愛されている空間なのであろう。

(審査委員 岡本 均)



特別表彰

西鉄100円バス



主催者：西日本鉄道株式会社

概要

平成11年7月1日から西鉄福岡駅とJR博多駅間エリアの乗合バス運賃を試行的に100円とし、同時にエリア内に100円循環バスを導入した。さらに平成12年4月1日からは、エリアを拡大し100円運賃及び循環バスの運行を本格実施した。ワンコインの手軽さから新たなバス需要を掘り起こし、気軽に利用できる移動の足として定着している。



市の都心部を100円玉一つで動ける「西鉄100円バス」は、昨年スタートし、都心における市民の足として定着した。この新しい取り組みの成功は、低料金による公共交通の復権という計画的・経済的な側面からまずは評価されるべきであらう。しかし、それにも増して私たちは、100円バスに乗り込んで、車窓に目をやり、博多の、川端の、天神のまちの生き生きとした現実感に、何よりも心を奪われる。それは、路面電車廃止以来20年を経て、一旦は失われた一人の目の高さで眺める都市というパースペクティブ（はつきりした見え方）を、福岡のまちに与えることに成功したからに外ならない。大きな空間を機能的につなぐ地下鉄や都市高速とは異なる、生活者の目線とスピード。車窓に囲まれた「動く視点場」の周りで流れてゆくのは、福岡という躍動する都市の、今、その時のページェントなのである。バスの車体のデザインには若干の物足りなさを感じるが、バスの車窓から福岡の未来を眺める、そんな人々が利用者の中から現れてくることを祈るとともに、福岡の街に彩りを与える存在となることを期待する。

(審査委員 仲間 浩二)